

「玉川上水の整備にみる歴史と技術」

「日本人は模倣することに長けており、独創性に乏しい」などと評価されて久しいが、「果たしてそうした評価は正しいのか」という疑問が、今回の企画展開催のきっかけでした。

故樋口清之博士は「日本と欧米とは、自然対応の姿勢も、事実認識の方法も、その表現方法も異なっていることを忘れがちである。いわゆる近代科学というのは欧米の生んだものである。その分析公式化の様式をとらないからといって、日本のいわゆる科学性が低い、と決めてかかることは、基本的に誤っている」と大ベストセラー本『梅干と日本刀』（祥伝社、1974.）のまえがきに記しておられます。

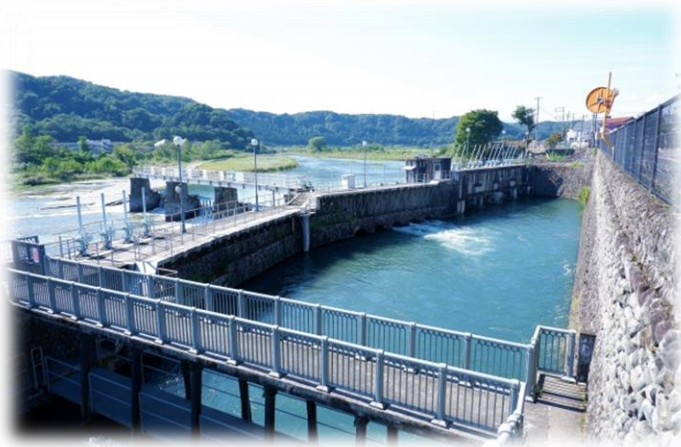
この本の第1章のテーマは、「日本には古来、すごい“科学”があった」で、26の事例が紹介されています。そして第4節では、今回のテーマ「玉川上水」の漏水止めの知恵が書かれています。

玉川上水は、多摩川羽村の堰から四谷大木戸の40数キロに及ぶ江戸時代に作られた上水道であり、小平市が誇る歴史的構築物です。

職業大図書館では、第1回「玉川上水の整備にみる歴史と技術」を皮切りとして、多摩地方の文化財を通して日本人の科学的思考力、科学的な知識・理解力の高さを知っていただく企画展をシリーズ化していきます。ご期待ください!!

〈樋口清之博士のプロフィール〉

1909年奈良県桜井市生まれ。国学院大学史学研究科卒業、長年国学院大学で後進の指導にあたる。静岡市の登呂遺跡発掘など草創期の日本考古学の発展に尽力し、わが国の考古学会の第一人者として著名である。1997年逝去。



展示物の紹介

企画展では次の資料を展示しています。

1 職業大図書館所蔵図書（計2冊）

- ・『梅干と日本刀』・『続 梅干と日本刀』

2 小平市立図書館所蔵図書（計14冊）

- ・『江戸に水がやってきた玉川兄弟ものがたり』＜絵本＞
- ・『講演録古文書に見る玉川上水』
- ・『講座玉川上水羽村町史資料集』第6集
- ・『小平学・まちづくり研究のフロンティア：地域学叢書1』ほか

3 アニメ『玉川兄弟』（19分）の上映

4 パネル展示